

東商けいきょう集計結果

(中小企業の景況感に関する調査)

平成21年10～12月期

【調査結果のポイント】

～持ち直しの動きが見られるものの回復ペースは鈍化、 先行き懸念が強まっている～

業況、売上、採算のいずれも改善傾向を示しているものの動きは緩慢。政策効果も息切れの状況で、来期見通しはいずれも回復ペースが鈍化するなど先行き懸念が強い。消費者志向の変化への対応難や販売価格の下落の渦中にある小売業、公共事業の削減や低価格受注に見舞われている建設業は特に厳しい結果となっている。

- 「業況DI」(全業種)は、前年同期比、今期水準、来期見通しのいずれも3期連続でマイナス幅が縮小したものの、来期見通しの回復ペースは減速している。特に建設業と小売業では先行き懸念が強い。(1、2ページ参照)
- 「売上DI」(全業種)は、前年同期比、今期水準、来期見通しのいずれもマイナス幅が縮小したものの、来期見通しの回復ペースは減速している。特に今期水準では小売業が不調。(3、4ページ参照)
- 「採算DI」(全業種)は、前年同期比、今期水準、来期見通しのいずれも前期に引き続きマイナス幅が縮小したものの、建設業では6割以上が先行きを懸念。(5、6ページ参照)
- 「資金繰りDI」(全業種)は、前年同期比と今期水準でマイナス幅が縮小、来期見通しは横ばいとなった。一方、建設業で悪化が顕著、先行きを懸念。(7、8ページ参照)
- 「民間金融機関の貸出姿勢DI」(全業種)は、前年同期比、今期水準ともに悪化した。特に小売業で悪化が顕著。(9、10ページ参照)

【調査要領】

○調査期間：平成21年11月10日～11月16日

○調査対象：東京23区内の中小企業2,386社

○調査項目：業況、売上、採算(経常利益)、資金繰り、民間金融機関の貸出姿勢

○調査方法：FAXおよび経営指導員による聴き取り

○回答数：851社(回答率35.7%)

※有効回答企業の業種別構成

- | | | |
|-------------------|---------------------|-------------------|
| ・製造業 232社 (27.3%) | ・建設業 116社 (13.6%) | ・小売業 117社 (13.7%) |
| ・卸売業 127社 (14.9%) | ・サービス業 259社 (30.4%) | |

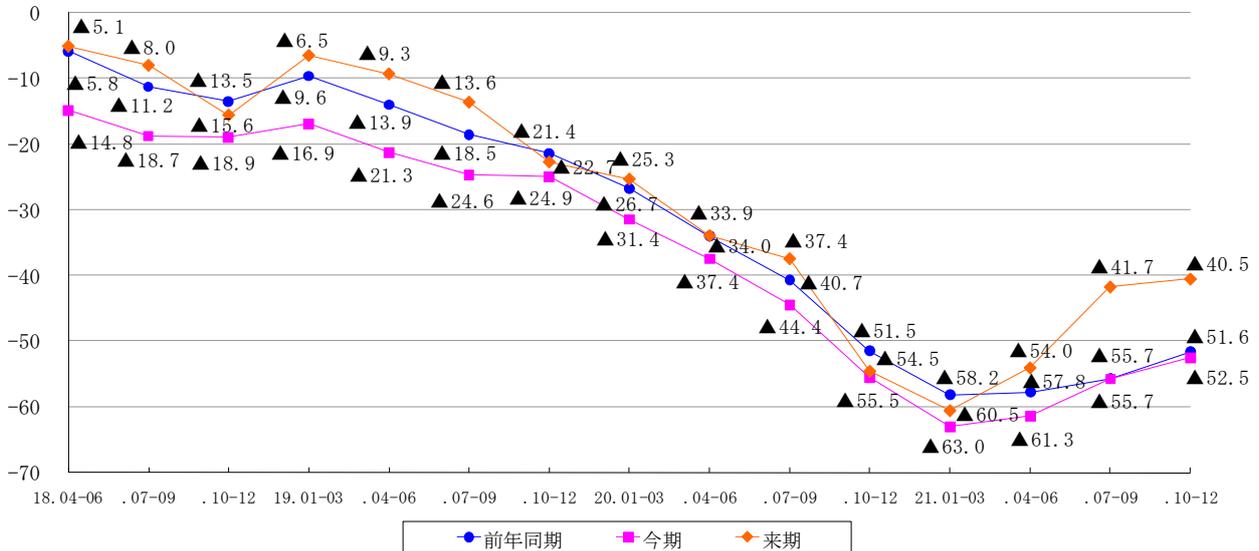
平成21年12月

東京商工会議所 中小企業部

1. 業況

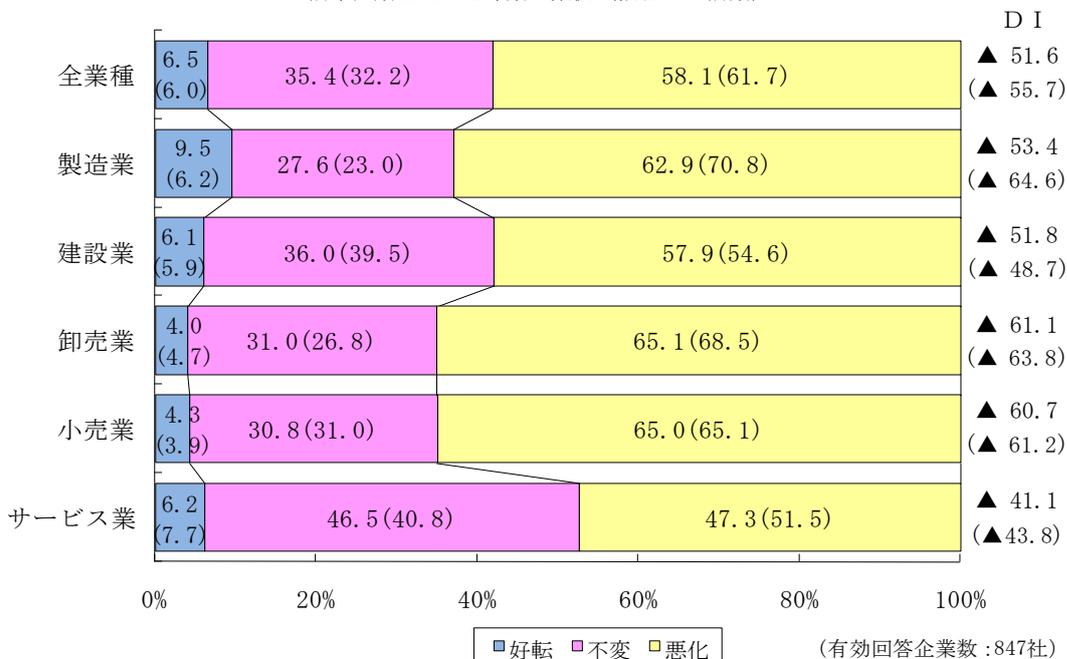
○全業種の「業況DI」は、前年同期比、今期水準、来期見通しのいずれも小幅ながら3期連続でマイナス幅が縮小、特に製造業で回復が顕著。一方、来期見通しの回復ペースは減速、特に建設業と小売業では先行き懸念が強い。

業況DIの推移（全業種）



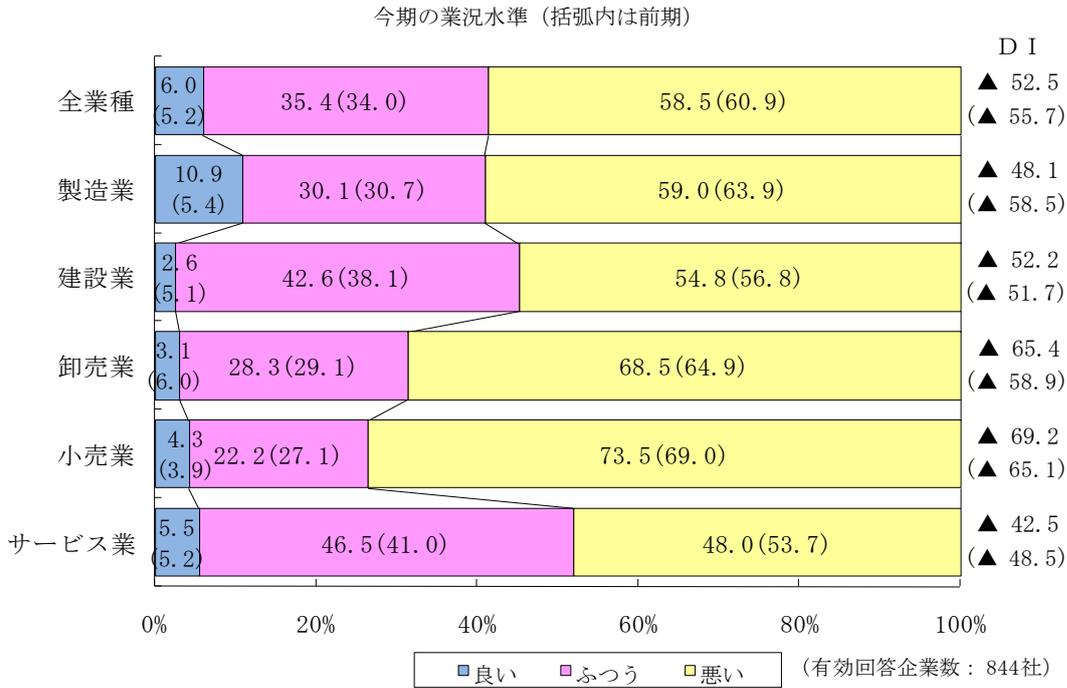
【質問1】前年同期（平成20年10～12月期）と比べた今期（平成21年10～12月期）の業況（自社）はどうですか。

前年同期と比べた今期の業況（括弧内は前期）



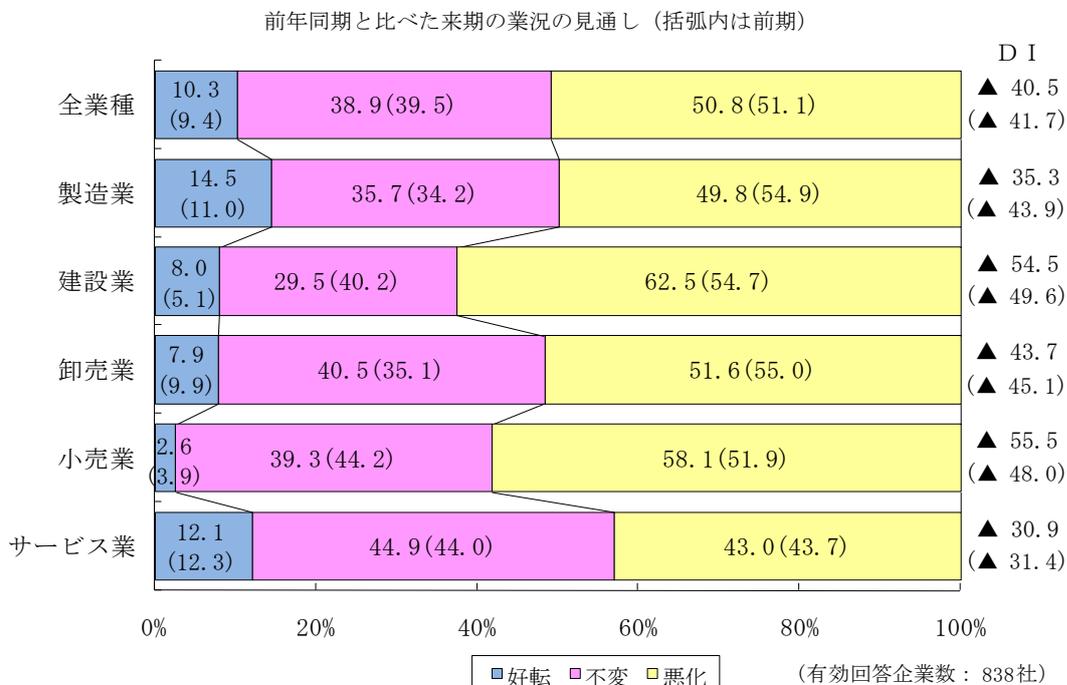
- ・全業種の「前年同期と比べた今期の業況DI」は▲51.6と前回調査に比べ+4.1ポイントとなり、3期連続でマイナス幅が縮小した。
- ・製造業、卸売業、サービス業でマイナス幅が縮小、特に製造業では▲53.4と前回調査時に比べ10ポイント以上の大幅な改善が見られた。小売業はほぼ横ばい、建設業ではマイナス幅が拡大した。

【質問2】 今期（平成21年10～12月）の業況（自社）水準をどのように感じますか。



- ・全業種の「今期の業況水準DI」は▲52.5と前回調査に比べ+3.2ポイントとなり、3期連続でマイナス幅が縮小した。
- ・製造業、サービス業でマイナス幅が縮小、特に製造業では▲48.1と前回調査時に比べ10ポイント以上の大幅な改善が見られた。建設業、卸売業、小売業ではマイナス幅が拡大した。

【質問3】 前年同期（平成21年1～3月期）と比べた来期（平成22年1～3月期）の業況（自社）の見通しはどうか。

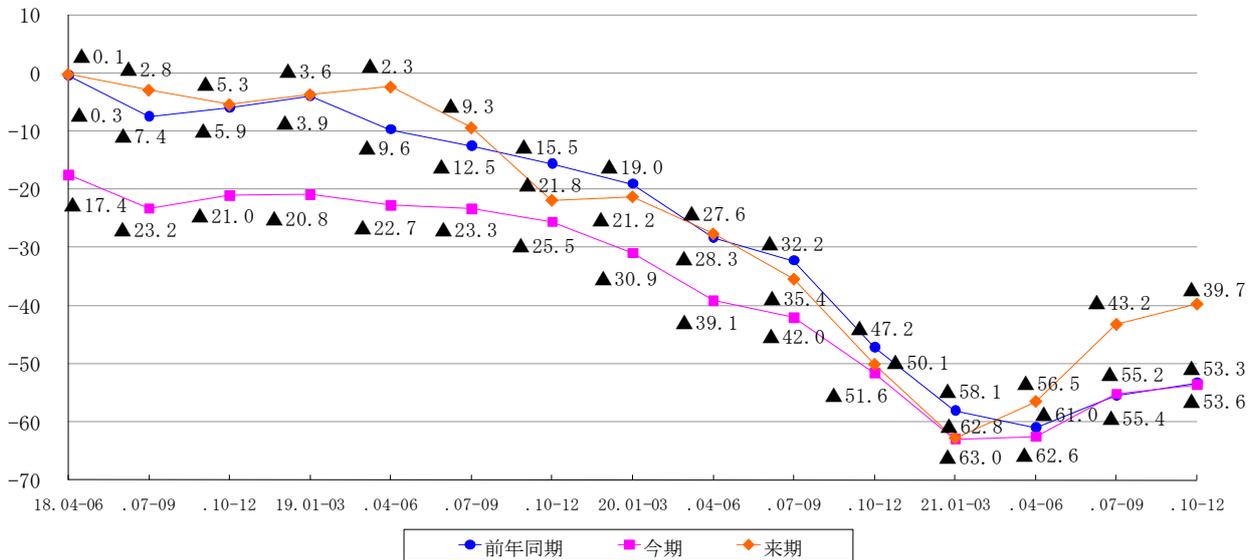


- ・全業種の「前年同期と比べた来期の見通しDI」は▲40.5と前回調査に比べ+1.2ポイントとなり、3期連続でマイナス幅が縮小したものの、回復のペースは減速した。
- ・製造業と卸売業でマイナス幅が縮小した一方、サービス業はほぼ横ばい、建設業と小売業ではマイナス幅が大幅に拡大、先行き懸念が強い。

2. 売上

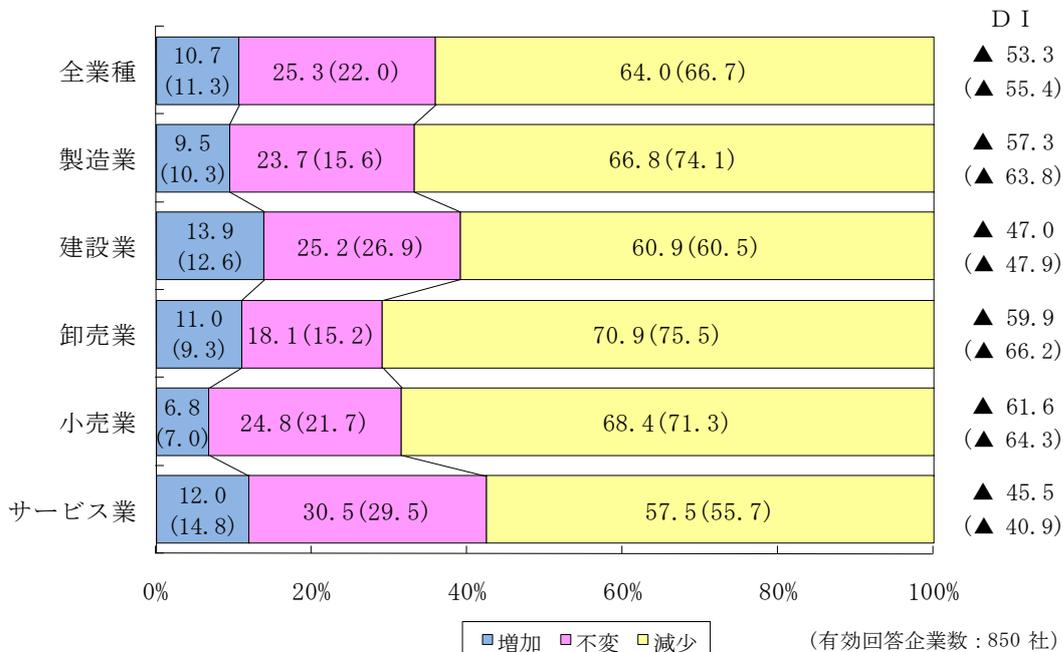
○全業種の「売上DI」は、前年同期比、今期水準、来期見通しのいずれも小幅改善、特に製造業で回復が顕著。一方、来期見通しの回復ペースは減速。今期水準では小売業が不調。来期見通しでは建設業と小売業で先行き懸念が強い。

売上DIの推移（全業種）



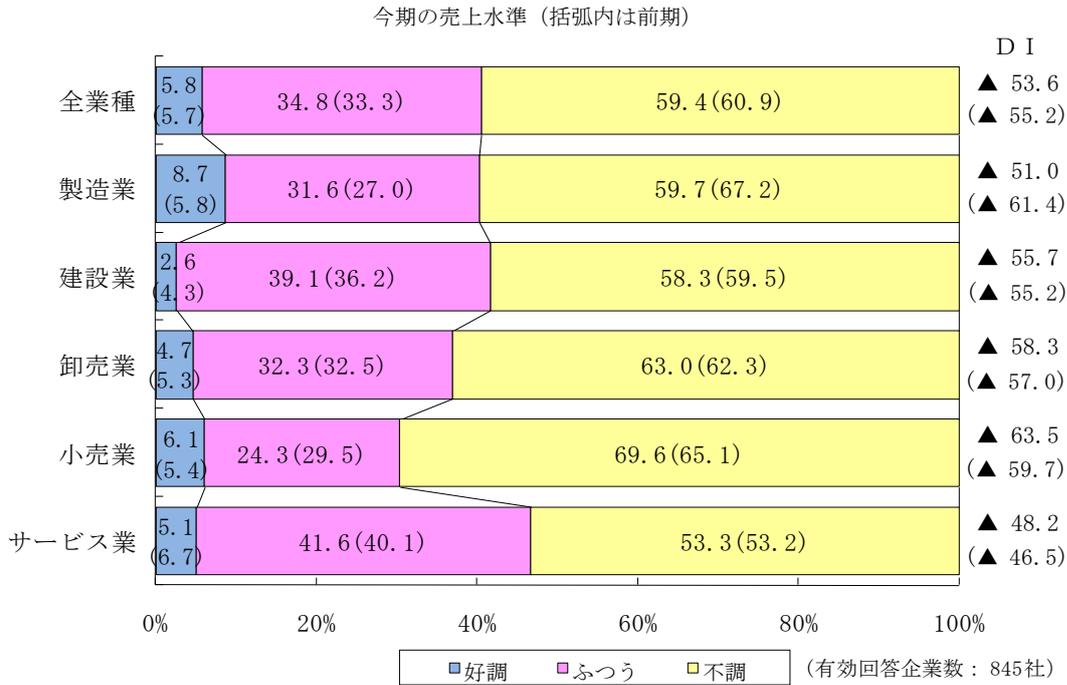
【質問4】前年同期（平成20年10～12月期）と比べた今期（平成21年10～12月期）の売上状況はどうか。

前年同期と比べた今期の売上状況（括弧内は前期）



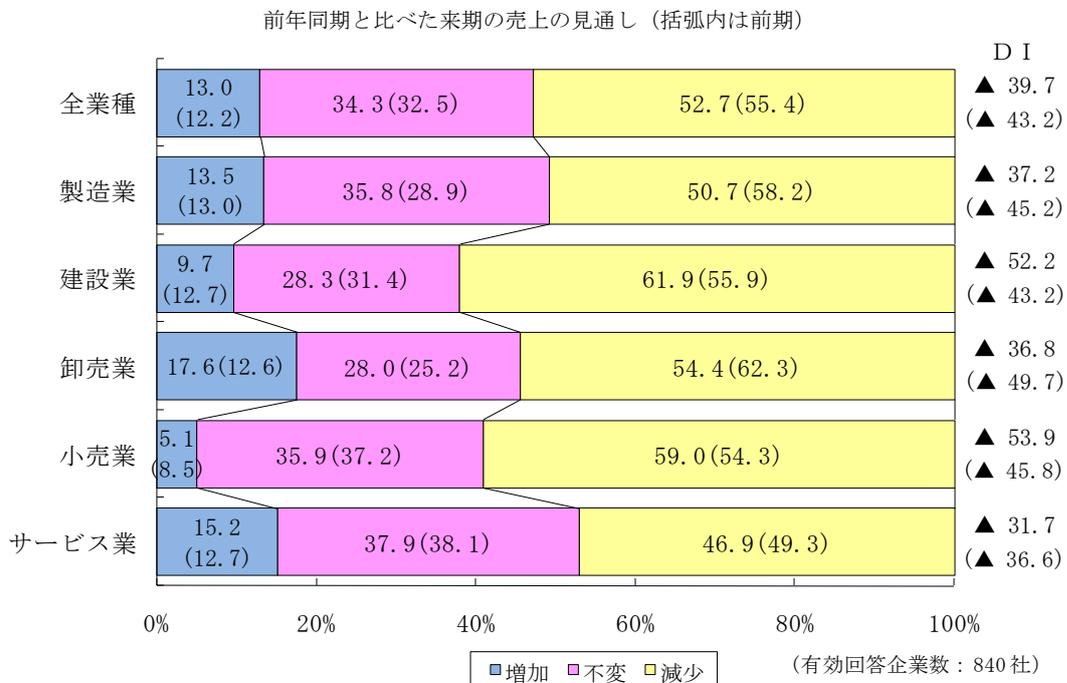
- ・全業種の「前年同期と比べた今期の売上DI」は▲53.3と前回調査に比べ+2.1ポイントとなり、緩やかながら2期連続でマイナス幅が縮小した。
- ・製造業と卸売業、小売業でマイナス幅が縮小した。建設業はほぼ横ばい、サービス業ではマイナス幅が拡大した。

【質問5】 今期（平成21年10～12月期）の売上水準をどのように感じますか。



- ・全業種の「今期の売上水準DI」は▲53.6 と前回調査に比べ+1.6 ポイントとなり、緩やかながら3期連続でマイナス幅が縮小した。
- ・製造業で10ポイント超と大幅にマイナス幅が縮小したものの、それ以外の業種ではマイナス幅が拡大、小売業では7割近くが今期売上を不調と回答している。

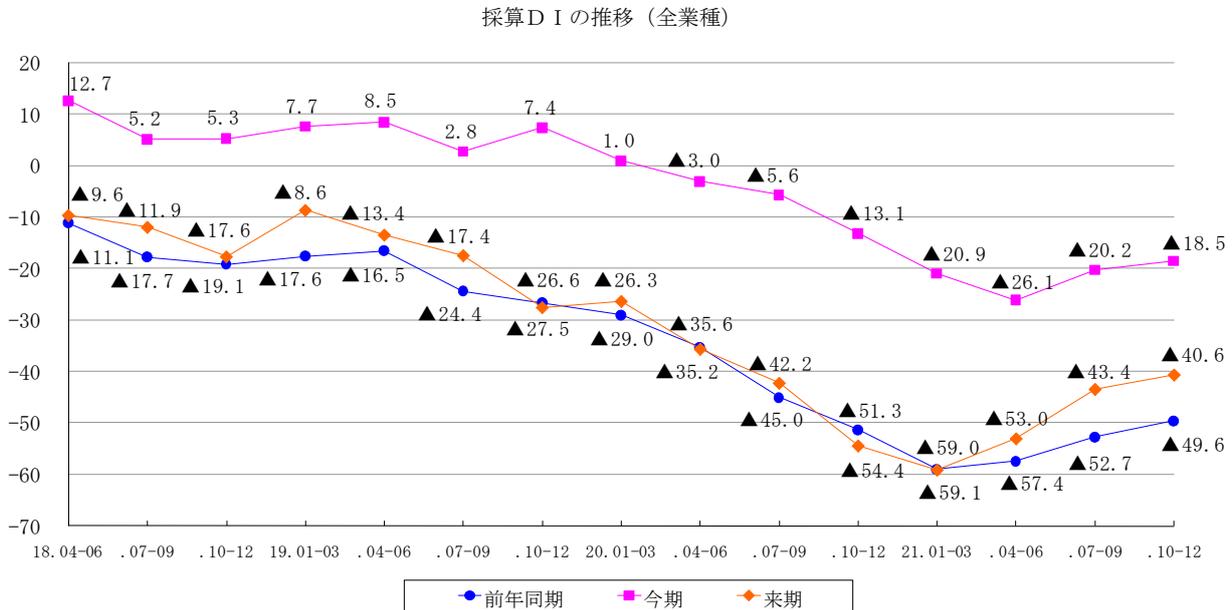
【質問6】 前年同期（平成21年1～3月期）と比べた来期（平成22年1～3月期）の売上の見通しはどうか。



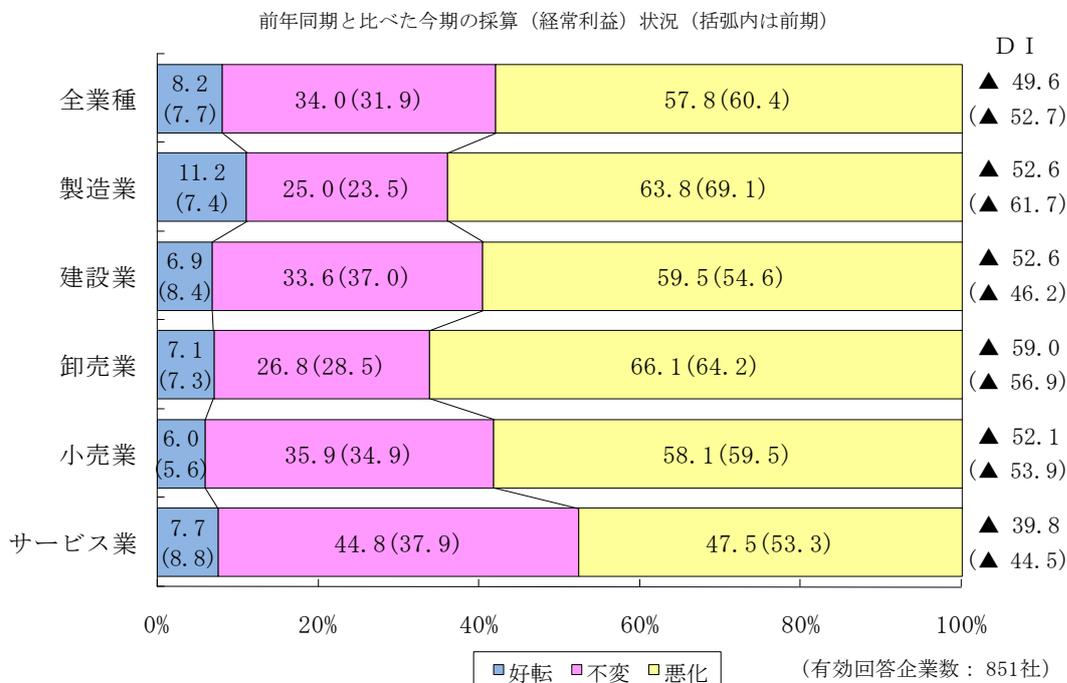
- ・全業種の「前年同期と比べた来期の売上見通しDI」は▲39.7 となり、前回調査に比べ+3.5ポイントとなり、3期連続でマイナス幅が縮小したものの、回復のペースは減速した。
- ・製造業、卸売業で大幅にマイナス幅が縮小している一方で、建設業と小売業ではマイナス幅が大幅に拡大。それぞれ約6割が来期見通しを減少と見ているなど、先行き懸念が強い。

3. 採算（経常利益）

○全業種の「採算DI」は、前年同期比、今期水準、来期見通しのいずれも緩やかながらマイナス幅が縮小。特に建設業で悪化が顕著、来期見通しでは6割以上が先行きを懸念している。

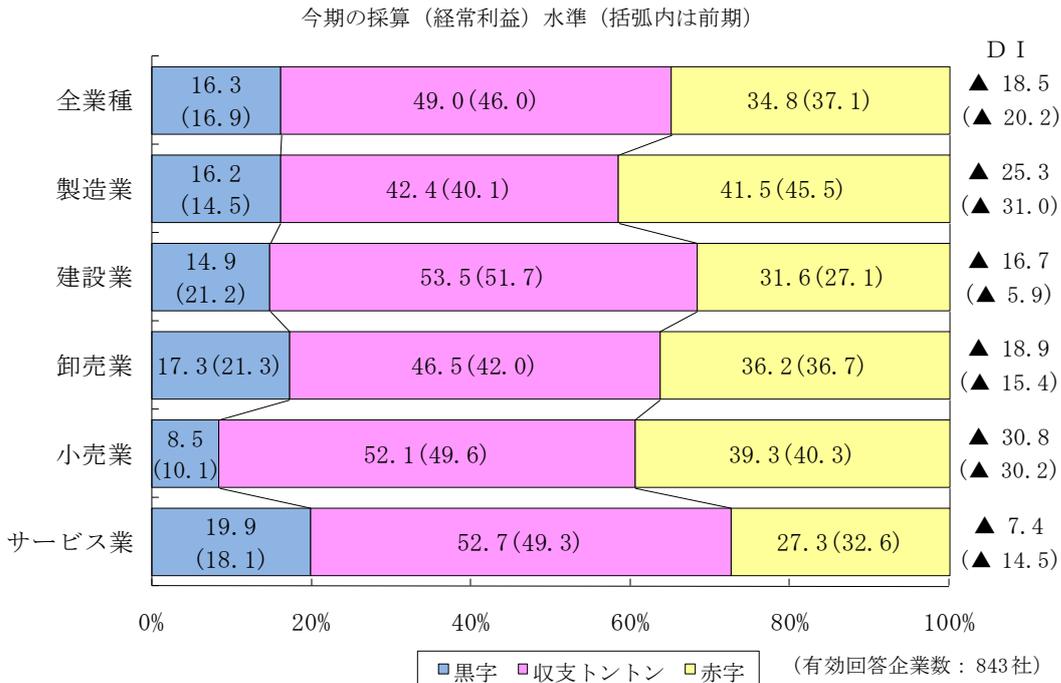


【質問7】前年同期（平成20年10～12月期）と比べた今期（平成21年10～12月期）の採算（経常利益）状況はどうか。



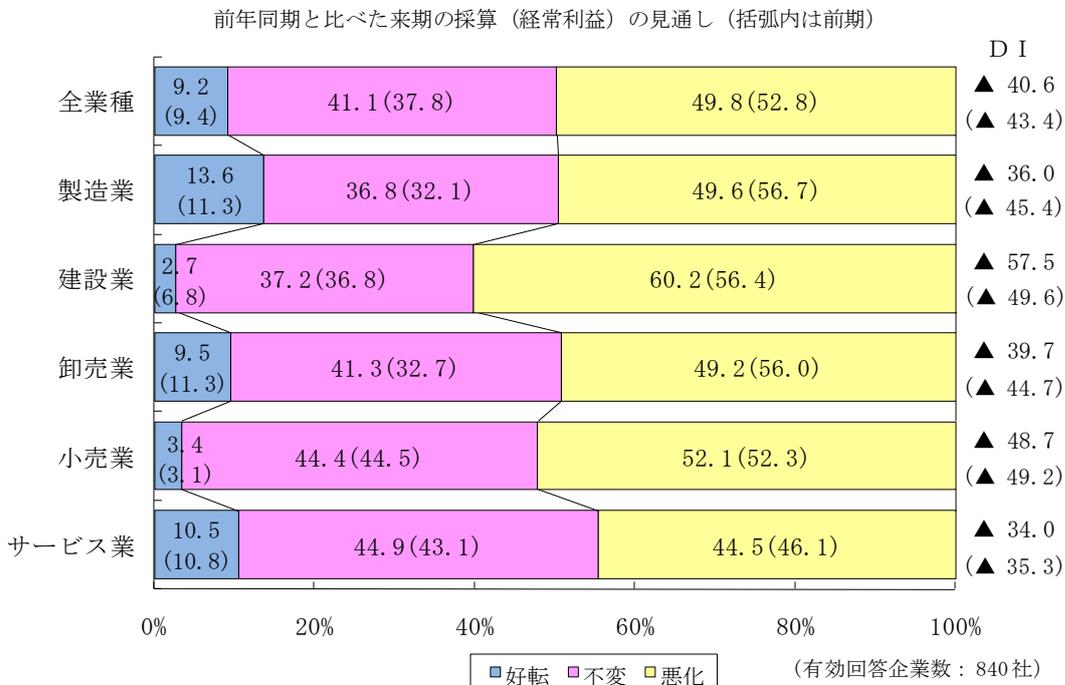
- ・全業種の「前年同期と比べた今期の採算DI」は▲49.6と前回調査に比べ+3.1ポイントとなり、緩やかながら3期連続でマイナス幅が縮小した。
- ・製造業、小売業、サービス業でマイナス幅が縮小した一方、建設業、卸売業ではマイナス幅が拡大した。

【質問8】 今期（平成21年10～12月）の採算（経常利益）水準はどうか。



- ・全業種の「今期の採算水準DI」は▲18.5と前回調査に比べ+1.7ポイントとなり、2期連続でマイナス幅が縮小した。
- ・製造業、サービス業でマイナス幅が縮小した一方、小売業はほぼ横ばい、建設業、卸売業でマイナス幅が拡大。特に建設業では大幅にマイナス幅が拡大した。

【質問9】 前年同期（平成21年1～3月期）と比べた来期（平成22年1～3月期）の採算（経常利益）の見通しはどうか。

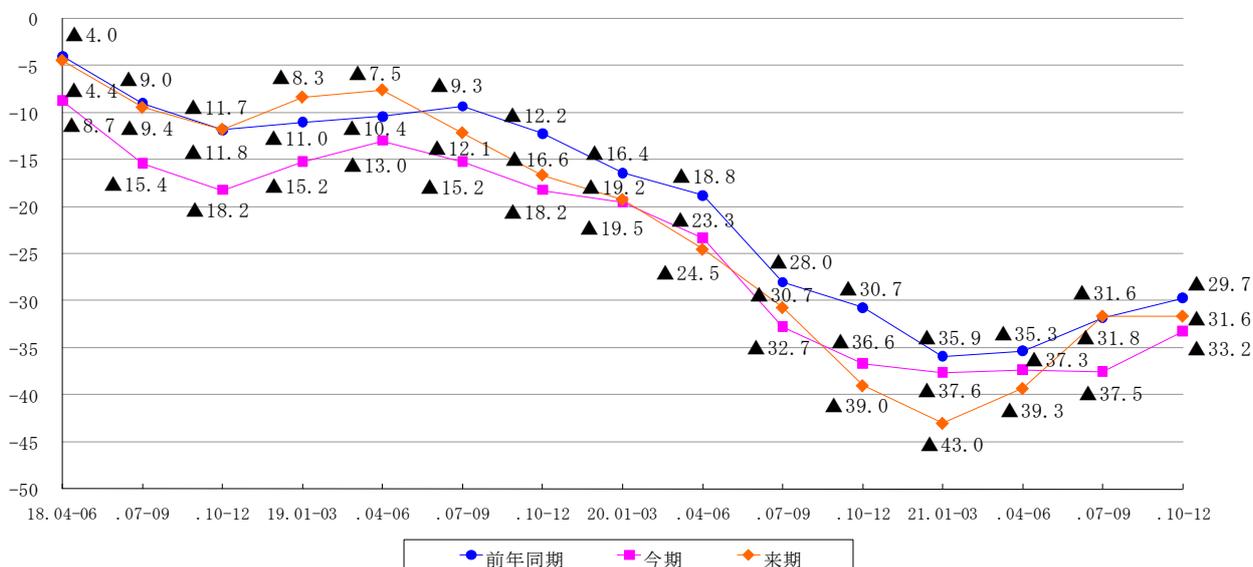


- ・全業種の「前年同期と比べた来期の採算見通しDI」は▲40.6と前回調査に比べ+2.8ポイントとなり、3期連続でマイナス幅が縮小した。
- ・製造業、卸売業で大幅にマイナス幅が縮小した一方、小売業はほぼ横ばい。建設業ではマイナス幅が大幅に拡大、6割以上が先行きを懸念している。

4. 資金繰り

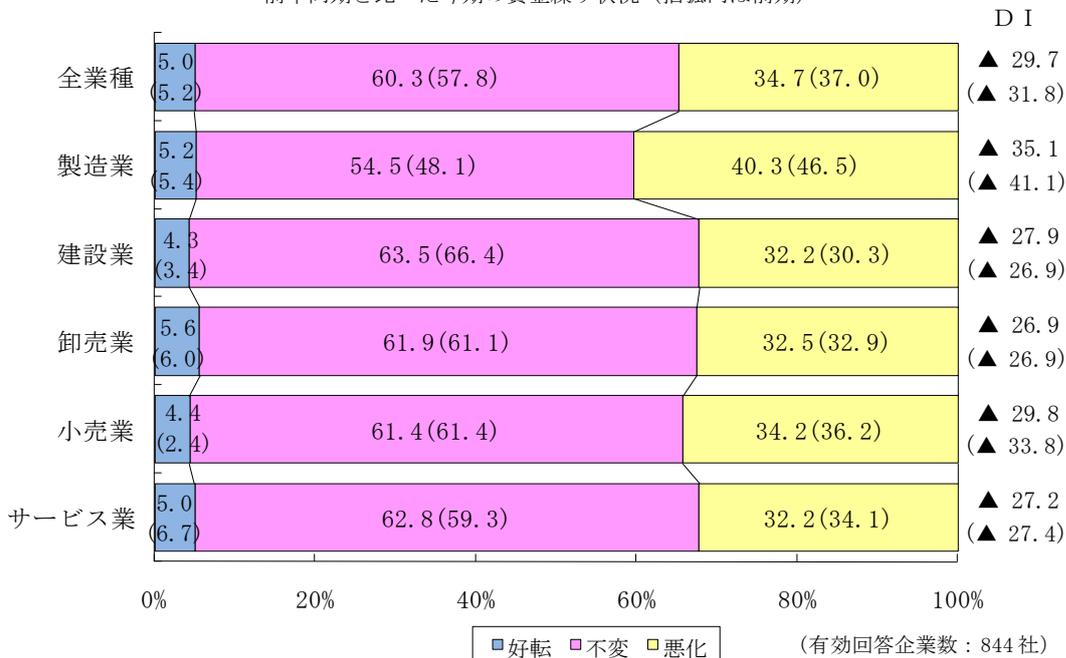
○全業種の「資金繰りDI」は、前年同期比と今期水準でマイナス幅が縮小、来期見通しは横ばい。特に建設業で悪化が顕著、先行き懸念が強い。

資金繰りDIの推移（全業種）



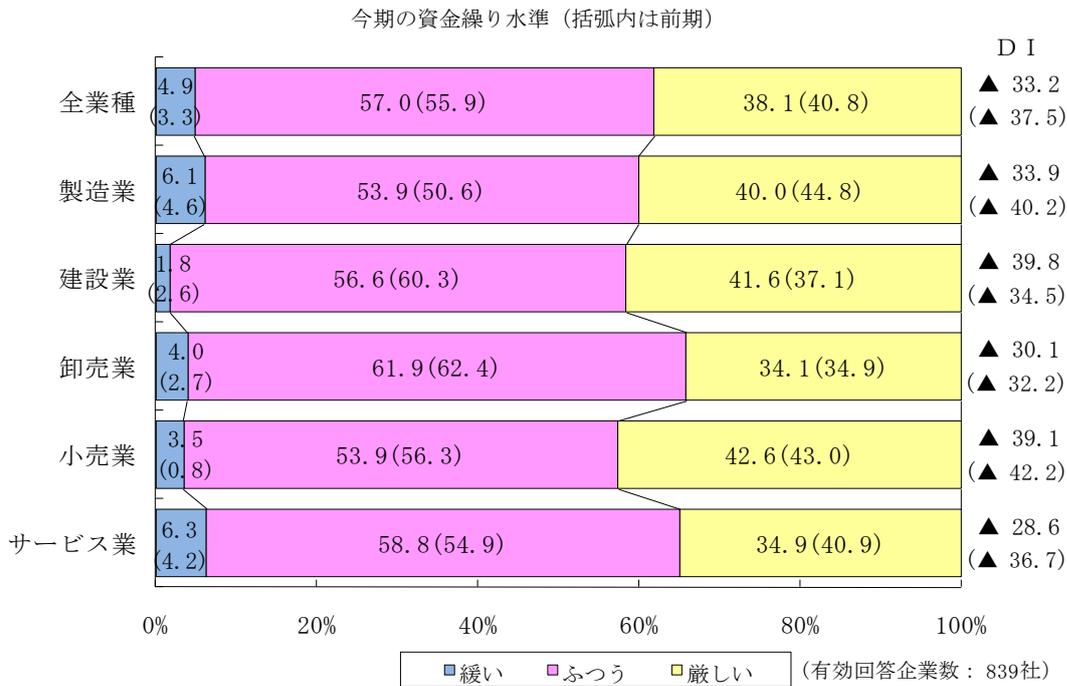
【質問10】前年同期（平成20年10～12月期）と比べた今期（平成21年10～12月期）の資金繰り状況はどうか。

前年同期と比べた今期の資金繰り状況（括弧内は前期）



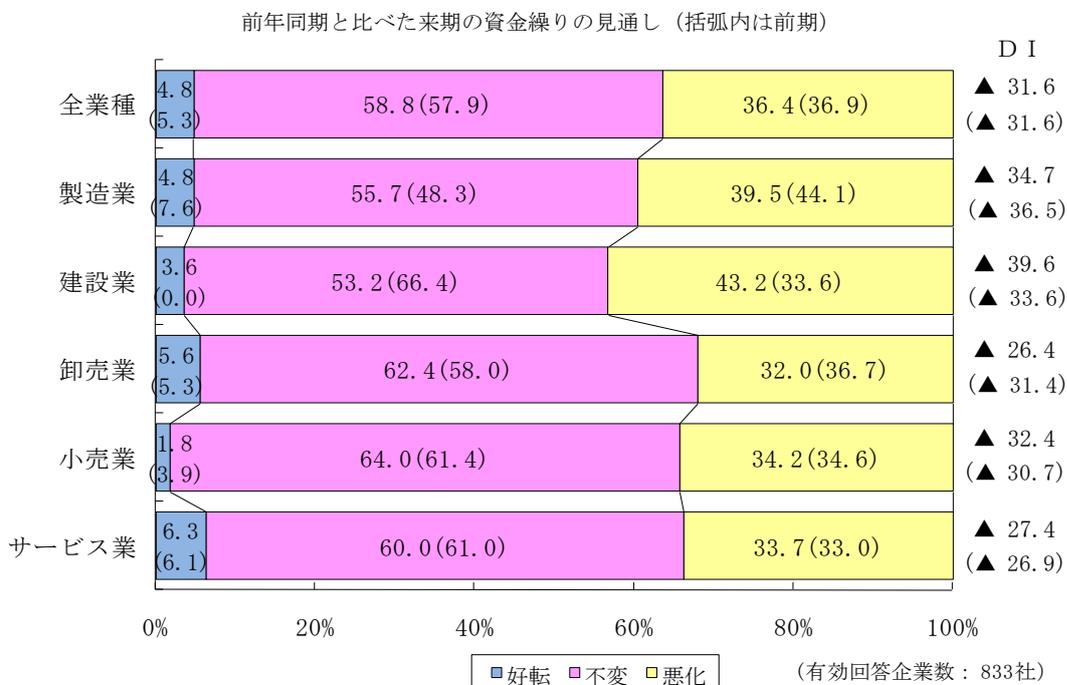
- ・全業種の「前年同期と比べた今期の資金繰り水準DI」は▲29.7と前回調査に比べ+2.1ポイントとなり、緩やかながら3期連続でマイナス幅が縮小した。
- ・製造業、小売業でマイナス幅が縮小した。卸売業、サービス業は横ばい、建設業ではマイナス幅が拡大した。

【質問 1 1】 今期（平成 21 年 10～12 月期）の資金繰り水準をどのように感じますか。



- ・全業種の「今期の資金繰り水準DI」は▲33.2と前回調査に比べ+4.3ポイントとなり、緩やかながらマイナス幅が縮小した。
- ・製造業、サービス業に大幅な改善が見られたほか、卸売業、小売業でもマイナス幅が縮小した。建設業のみマイナス幅が拡大した。

【質問 1 2】 前年同期（平成 21 年 1～3 月期）と比べて来期（平成 22 年 1～3 月期）の資金繰りの見通しはどうか。

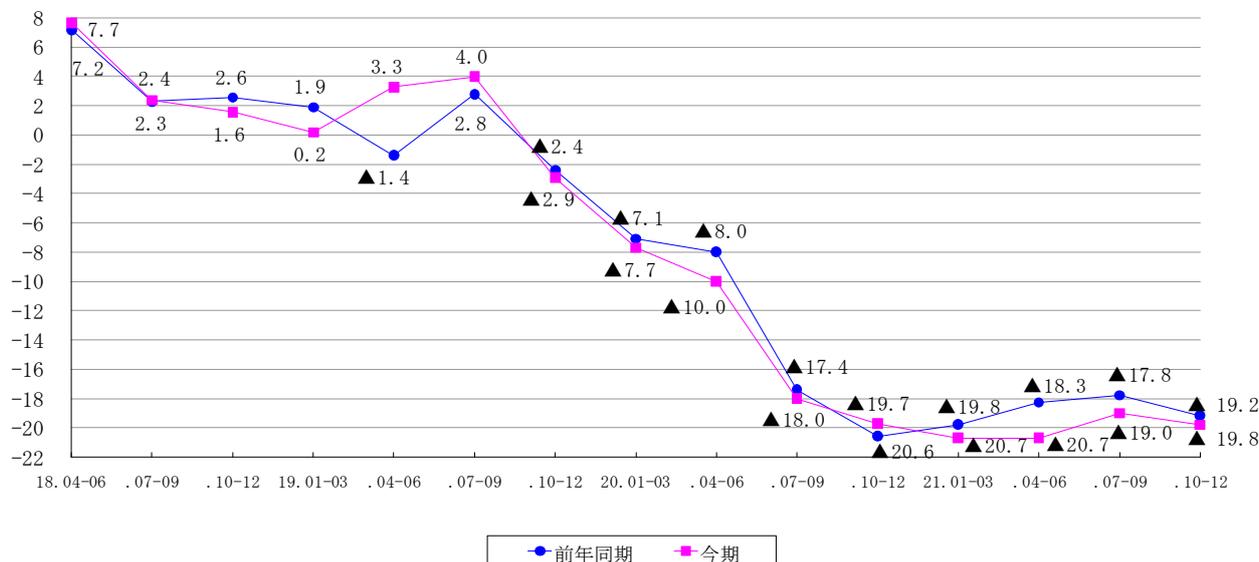


- ・全業種の「前年同期と比べて来期の資金繰り見通しDI」は前回調査と同じ▲31.6で横ばいとなった。
- ・製造業、卸売業でマイナス幅が縮小したものの、その他の業種ではマイナス幅が拡大した。特に建設業では▲39.6と前回調査時に比べ-6.0ポイントとなり、悪化の回答も前回調査時に比べ10ポイント近く増加するなど、先行きを懸念している。

5. 民間金融機関の貸出姿勢

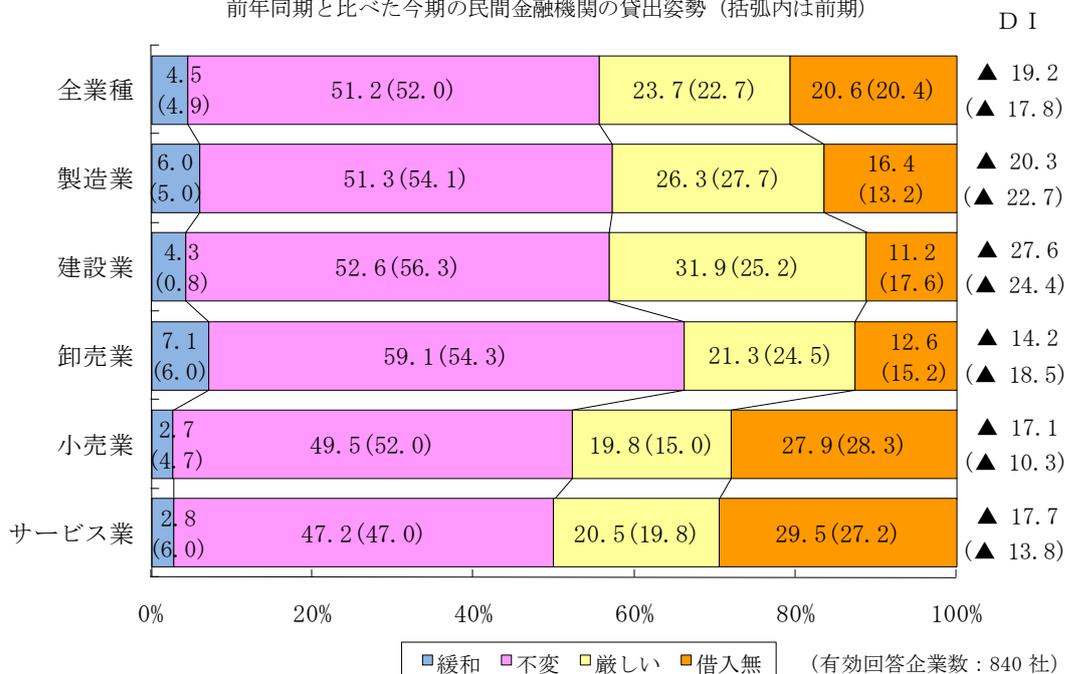
○全業種の「民間金融機関の貸出姿勢DI」は、前年同期比で4カ月ぶり、今期水準では3カ月ぶりにわずかながら再び悪化に転じた。特に小売業で悪化が顕著、年末に向けた資金調達の厳しさが表れている。

貸出姿勢DIの推移（全業種）



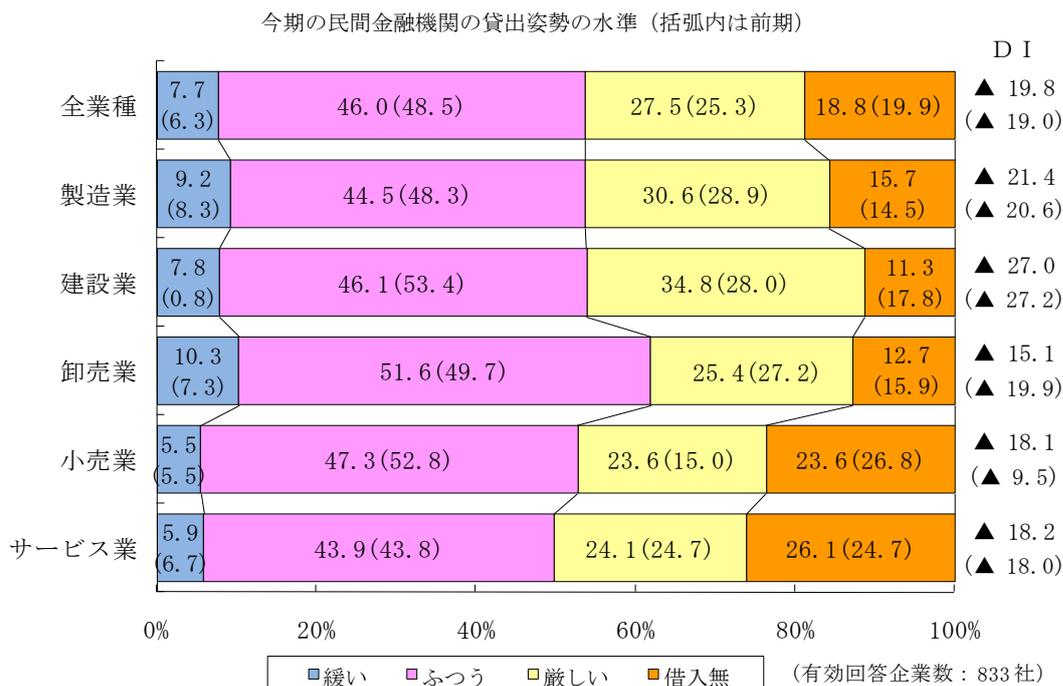
【質問13】前年同期（平成20年10～12月期）と比べて、今期（平成21年10～12月期）の民間金融機関の貸出姿勢は、変化がありましたか。

前年同期と比べた今期の民間金融機関の貸出姿勢（括弧内は前期）



- ・全業種の「前年同期と比べた今期の民間金融機関の貸出姿勢DI」は▲19.2と前回調査時に比べ-1.4ポイントとなり、わずかながら悪化に転じた。
- ・製造業、卸売業でマイナス幅が縮小、その他の業種ではマイナス幅が拡大した。特に小売業では▲17.1と前回調査時に比べ-6.8ポイントと厳しさが増している。

【質問14】 今期（平成21年10～12月期）の民間金融機関の貸出姿勢の水準をどのように感じますか。



- ・全業種の「今期の民間金融機関の貸出姿勢 DI」は▲19.8 と前回調査時に比べー0.8 ポイントとなり、わずかながら悪化に転じた。
- ・卸売業でマイナス幅が縮小、建設業、サービス業ではほぼ横ばい、製造業、小売業ではマイナス幅が拡大した。特に小売業では▲18.1 と前回調査時に比べー8.6 ポイントとなり、貸出姿勢が厳しいとする回答も前回調査時に比べ8 ポイント以上増加するなど、年末に向けた資金調達の厳しい状況が表れている。

- ※ 本集計結果におけるDI値とは、「好転」「良い」「増加」「好調」「黒字」「緩和」「緩い」とする企業の割合から、「悪化」「悪い」「減少」「不調」「赤字」「厳しい」とする企業の割合を差し引いた値を表す。
- ※ 本集計結果における前期とは、平成21年7月～9月期調査を表す。
- ※ 全ての質問について、割合は四捨五入を行っているため、必ずしも合計が100.0%にならない。
- ※ 本調査結果の集計にあたっては、独立行政法人中小企業基盤整備機構が実施している「中小企業景況調査」の調査結果を一部活用している。